

諫早特別支援学校と議員との意見交換会 概要

○参加者 議員：坂口慎一議員、山村健志議員 生徒：3年生 2名、2年生 1名

○発表テーマ：誰もが暮らしやすい社会の実現に向けて

○意見交換会要旨

(坂口慎一議員)

長崎県では、障害福祉に関して「障害のある人もない人も共に生きる長崎県づくり条例」を制定しており、長崎県福祉保健総合計画をはじめ、さまざまな計画を策定するなど、幅広い取り組みを行っています。しかし、こうした取り組みだけでは、まだ十分に行き届かない部分もあります。今回の発表を通じて、私たち議員も改めてそのような課題に気づかされました。とても素晴らしい発表だったと思います。

(山村健志議員)

トイレの荷物置きの話がありましたが、やっぱり困ることが多いんですか。

(生徒)

長崎市の大型商業施設で買い物をした際、荷物をお手洗いに持っていけないので、そういったところに不安を感じます。トイレの床には荷物を置きたくないので、荷物置きが低いところがあると安心してお手洗いを利用できると思い、今回提案させていただきました。

(山村健志議員)

今までそういった視点で障害者トイレを見ていなかったのも、良い勉強になりました。また、商品の陳列についての提案もありましたが、すごく考え方が良かった。

(生徒)

親と買い物に行くことが多いんですが、その時に取りたい商品があっても、自分で取れないことが多く、親にお願いして取ってもらっています。ただ、将来的に1人で買い物に来ることになった場合、今回提案したような陳列であれば取りやすくなるし、私だけでなく高齢者の方も楽になると思い、提案させていただきました。

(山村健志議員)

2列あるうちの1列を上下入れ替えるだけなので、できるお店も多いと思いますし、とても良い提案だと思いました。

(坂口慎一議員)

今回発表いただいた事例以外で、何か困ったこととかありますか。

(生徒)

長崎は坂が多いですが、手すりがないところも多い。親と一緒に出かけているので、今は問題ないですが、将来、一人で暮らすとなった時に長崎に住むのは難しいのかなと感じています。低い平地だけで生活するのはやっぱり難しいので。

(坂口慎一議員)

昔と比べたら、ユニバーサルデザインが一般的になってきたけれども、階段しかないところとかも多いので、不安を感じることもあるってことです。

(生徒)

多くの施設にエレベーターがありますが、乗る人が多かったり、開閉時間が短かったり使いづらいことが多いです。開延長ボタンを押してくれる人もいるんですが、全部のエレベーターにある訳ではないので、エレベーターを使うことが怖くなる時があります。特に昔の施設のエレベーターは狭くて、利用しづらいことが多いです。

(坂口慎一議員)

最近、「共生社会」という言葉が浸透してきましたが、昔の建物はその考え方を取り入れていないものが多いので、そういった部分は不便なところがたくさんあると思います。そういうところを全て変えていこうとすると、お金や時間がどうしてもかかってしまう。ただ、今回の発表のように、「こういったことで困っている」といった声を直接私たちに届けていただければ、長くかかることも少し早いペースで進めることもできると思うので、何かあればまた教えてください。

(山村健志議員)

最近は、回転半径が小さく小回りが利きやすいなど様々な機能を持った車椅子が開発されてきている。高齢化もあり、車椅子で生活しなければいけない人は今後増えてくると予想されるので、さらに便利さを追求した商品も開発されていくと思います。また、全ての施設の改修や、道路を全部改良するのは正直難しいですが、車椅子の方の利用が多い施設や道路に予算を使うことはできるかもしれない。なので、困りごとがあれば、どんどん教えていただければと思います。